

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	シユツ・コンテナシステム(株)本社・秦野工場	階数	地上3F
建設地	秦野市首屋字首屋原86番2(地番)	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火指定なし	平均居住人員	0人
気候区分		年間使用時間	7,200時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年3月 予定	評価の実施日	2014年2月15日
敷地面積	12,116 m ²	作成者	(株)ピーエス三菱
建築面積	6,640 m ²	確認日	2014年2月19日
延床面積	13,214 m ²	確認者	(株)ピーエス三菱

外観バース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: A: 3.0 B+: 1.5 BEE=1.0 B-: 0.5 C:

環境品質 Q

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30% 60% 80% 100% 100%超

建設 修繕・更新・解体 運用 ロンサイト オフサイト

参照値 100%

建築物の取組み 87%

上記+ 以外の 87%

上記+ 87%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能 5

Q1 室内環境 4

Q3 室外環境(敷地内) 3

LR1 エネルギー 2

LR2 資源・マテリアル 1

LR3 敷地外環境 1

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
屋根・外壁は断熱材を充填した金属パネルを使用し、断熱を積極的に考慮した。 外部環境は、道路側既存樹木を極力残し、出来るだけ周囲に悪影響を与えないよう努めた。 LED照明の他、高効率な照明器具を採用した。	0	
Q1 室内環境 事務室照度を750lx以上になるよう計画した。 化学汚染物質において、床・壁・天井・天井裏に、規制対象外またはF材を100%使用する。 全館禁煙とする。	Q2 サービス性能 全館禁煙とすると共に十分な広さの休憩室を確保した。 事務室の天井高を確保し、外壁面に出来るだけ窓を設置した。電気設備・精密機器の浸水の危険性がないよう配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内緑地を20%以上確保した。 道路側既存樹木を極力残した。
LR1 エネルギー 工場として一般的な仕様になるよう努めた。 LED照明の他、高効率な照明器具を採用した。	LR2 資源・マテリアル 節水型の器具を積極的に採用した。 躯体に仕上げを直張りしない構造とした。	LR3 敷地外環境 ・光害について、照明範囲を絞り過度な照度にならないよう、エネルギーの有効利用を図った。 ・周辺への漏れ光が少ない器具の選定や過剰な照明にならないよう、人間諸活動への影響に配慮した。 ・敷地内緑地を20%以上確保した。 ・道路側既存樹木を極力残した。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される